

平成29年12月18日  
 東部農林振興センター出雲事務所農業普及部

標 題	出雲地方農業士会で「若手農業者の育成」をテーマに研修会を開催 ～農業士とその雇用就農者による意見交換を初めて実施～
-----	--

(ダイジェスト)

12月13日、出雲地方農業士会は若手農業者の育成をテーマに研修会を開催。県内の新規就農者の就農状況について、公益財団法人しまね農業振興公社の山根宣秋氏が話題提供を行った後、農業士とその農場で勤務している若手従業員・研修生でグループ討議を行い、お互いの考えや思いを共有しました。

出雲市において農業振興の一助を担う出雲地方農業士会（黒田富広会長他21名）は、毎年テーマを決めて、研修会を行っています。

今回は、ある農業士の「自分の農場で雇っている従業員等も、農業士の研修会等に出席させ、他の農業士と交流させ、研磨させたい」という要望があったこと、我々自身が自営就農者と接することはあるものの、雇用就農者と意見交換する機会がほとんどないことから企画しました。

最初に、公益財団法人しまね農業振興公社の山根宣秋氏より、近年の新規就農者が年間170名前後のペースで就農しており、彼らの約7割が雇用タイプである等の話題提供をいただきました。

その後、グループ討議は2回行い、1回目は、立場は関係無く出席者全員を3グループに分け討議を行い、2回目は、その討議で出た話題を基に、農業士、若手従業員・研修生、関係機関の3つのグループで検討を行いました。

討議の中で、若手従業員等からは「将来、自営就農するために、今、雇用の形態で研修している」、「小さな仕事でもいいので、任せてもらとうれしい」、「自慢して次世代に農業を引き継ぎたい」といった意見があり、農業士からは、「今回、若手従業員の思いが分かった。今後、横の繋がりが必要である」、「地域が一体となってフォローする体制が必要である」、「農業経営に対する感度をあげることが必要」などの活発な意見が出ました。

今回の研修会をきっかけに、農業士とその農場で勤務する若手従業員等が横や斜めの繋がりを作り、互いの思いを共有しながら、彼らの育成そして、管内の若手農業者の育成に生かしていきたいと思えます。



グループ討議の状況